

**地区名：和泉地区**

**実施主体：和泉自治会**

## 1 基本データ

○地区人口 466人（R2.4.1現在）

○世帯数 231世帯

○行政区数 11行政区

○面積 約332平方キロメートル

○地区の沿革

和泉地区は福井県の東端に位置しており、面積332平方キロメートルの約9割を山林が占めている。地域の中央を岐阜県境に源を発する九頭竜川が東西に貫流しており、また九頭竜川をせきとめた九頭竜ダムを始め、大小複数の人造湖を形成している。



秋の九頭竜ダムと箱ヶ瀬橋

昭和31年9月に下・上穴馬村が合併して和泉村となり、昭和34年10月に石徹白村の一部を編入した。そして平成の合併で平成17年11月7日に大野市と合併し現在に至っている。

和泉地区は、昭和43年の九頭竜ダム完成や昭和62年の日本亜鉛鉱業中竜鉱山の採掘中止などが影響し人口が激減した。人口の絶対数の少なさ、豪雪地帯・山村地域という地理的条件、工業用地条件の欠如による魅力ある職場の少なさ、都市的生活環境整備の立ち遅れ等による若者の不定着により過疎化が進んできた。

このような中、旧和泉村では地域の特性を生かしたむらづくりの理念のもと「観光立村」を掲げ、昭和40年代後半より多くの観光施設の整備を行ってきた。

交通網では、中部縦貫自動車道大野油坂道路の和泉・大野間（19.5km）が、令和4年度に開通することから、岐阜県側の東海北陸自動車道の整備と合わせ、中京圏からの距離もますます短縮され「福井県の東の玄関口」と位置付けられている。

## 2 現状と課題

和泉地区は、大野市街地から約30kmの距離があり、行政サービス低下への懸念や若者の流出による高齢化が進み、地域力・マンパワー不足による地域の衰退、経済情勢の悪化による観光客の減など、当地区の将来への不安が増大している。

また、合併前は小さな自治体であり、きめ細やかな行政サービスを受けていた。このような状況もあり、住民が自ら行動を起こし、自らの手で事業を行うという意識が薄く、行政に強く依存している状況であった。

合併後は依存体質から脱却し、近い将来の中部縦貫自動車道全線開通に伴い「観光・交流拠点」になることが重要と考え、人づくりを基本に、人と人、心と心、絆を大切にし、和泉地区を愛し、住み続けられるよう、様々な取り組みを行っている。

## 3 事業内容

### ① 和泉花木の里事業

① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト  
（花桃の育成管理）

主体：越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会  
平成21年11月に、自主事業団体「越前お

おの・九頭竜花桃回廊実行委員会」が発足し、平成22年から現在までに1,700本の花桃を植樹し、植樹した木の管理している。和泉自治会も実行委員会の実施主体である実行委員会の事業推進に協力している。



「九頭竜保養の里」の花桃

## ② 道端花いっぱい運動

主体：自治会

公民館近くの公共施設が集まる場所にある花壇に花を植え、地区住民はじめ多くの人が行き来する時に癒しを与えている。

また、住民各自が作業を自主的に行うことにより、環境美化の意識を高め、地域を花でいっぱいにするを目的として実施している。



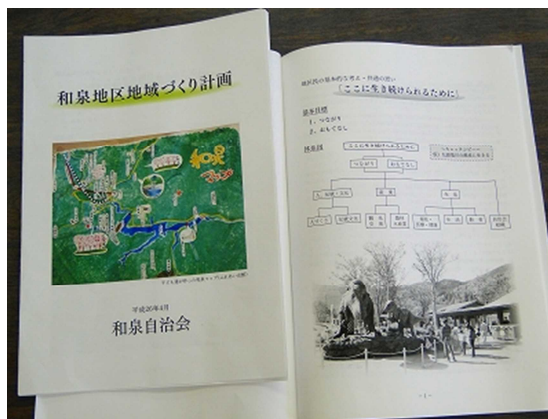
「道端花いっぱい運動」の花壇

## ② 地域づくり計画活動事業

主体：自治会

平成26年4月に、「ここに生き続けられるために」をキャッチフレーズに、「和泉地区地域づくり計画」を策定した。「生活」、「産業」、「人・伝統」の3つのチームが中心となり、地区の中で必要なことの具体的な活動を実施している。

また、地域資源を生かして、自立した地域を目指していく。



和泉地区地域づくり計画

## 4 事業の成果

### ① 和泉花木の里事業

#### ① 越前おの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

平成22年から24年までの3年間で植樹イベントを実施し、九頭竜保養の里など地区内各

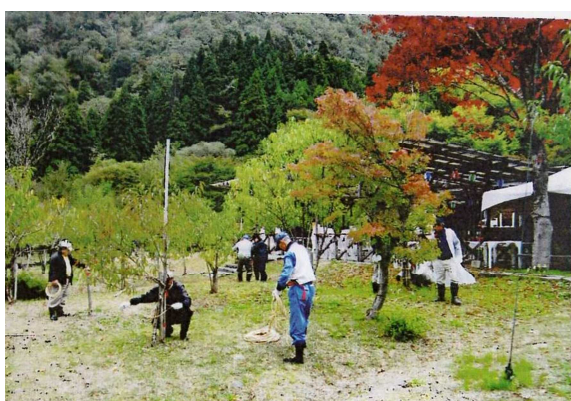


所に1,500本の花桃を植樹した。平成25年からは、秋には雪対策として苗木の雪囲い、春には苗木の雪囲い撤去、また年間を通じて消毒や除草剤、肥料散布、周辺の草刈作業を実施し、増植した木を含め、現在は、1,700本の花桃の木を管理している。

毎年5月には花桃鑑賞のイベント、10月には雪囲い作業と交流会を実施している。これらの作業は実行委員会メンバーのほかボランティア「花桃ガーディアンズ」を募集し、和泉地区住民だけでなく地区外からも多く参加し、作業等を通じて交流が生まれている。

今年度は新型コロナウイルス感染の影響でイベントや交流会を開催することができなかつたため、実行委員会委員メンバーと自治会役員のみで作業を行った。

将来この地域が花桃でいっぱいになり、多くの人に、この地を訪れてもらえることに思いをはせている。



花桃の育成管理（枝打ち・雪囲い作業）

## ② 道端花いっぱい運動

公民館近くの公共施設が集まる場所の花壇に花を植え、花苗植えや草むしり等を住民各自が自主的に行うなど、環境美化に関する意識が高まっている。



花壇づくり作業

また、コロナウイルスの感染の状況で暗くなりがちな日常を明るくするため、プランターや花苗等各家庭や地区に配布し、花いっぱい運動を拡大して取り組んだ。



プランター用シール



夏には地元の児童センターの子供たちが「コロナに負けない」のカラフルなイラスト入りの看板を手作りで作成し、花壇に設置した。花壇の中から子供たちが、住民に注意喚起のメッセージを送ってくれた。



手づくり看板と子供たち



品名	単位	価格	数量	合計金額	備考
雪乃下	kg	5000	1	5000	
ずり	kg	5000	1	5000	
ぜんまい	kg	5000	1	5000	
なもじ	kg	5000	1	5000	
なもじ	kg	5000	1	5000	

「和泉山菜手帳」



商品化した「雪乃下かぶら」

## ② 地域づくり計画活動事業

### ① チーム活動

#### <産業チーム>

産業チームでは、未利用資源を活用した地域ビジネスの創生に散り組んでいる。毎年、「和泉山菜手帳」を各戸に配布し、収穫時期や出荷方法を周知している。和泉地区の山菜等を産地直送や加工品として県外へ出荷することで、地区の活性化や住民の所得向上に繋げていきたい。

#### <生活チーム>

子どもから高齢者までが集い語り合う地区住民の交流拠点「より処」では、毎週水曜日に多くの住民が集まり、ランチやお茶を飲みながらおしゃべりや、各自が持ち寄った趣味で楽しんでいる。

毎月1回、診療所、公民館が共同で、「健康プラスデー（体重や体脂肪・筋肉量などの健康チェック）」と、「運動プラスタイム（簡単にでき



る軽体操)」を実施している。

いつでも誰でもが交流の拠点に集うことで、お互いのつながりを深め、連携感が強まり、地域力が向上されていくものと感じられた。

今年度は、「より処」の換気扇の整備を行った。



「運動プラスタイム」の様子

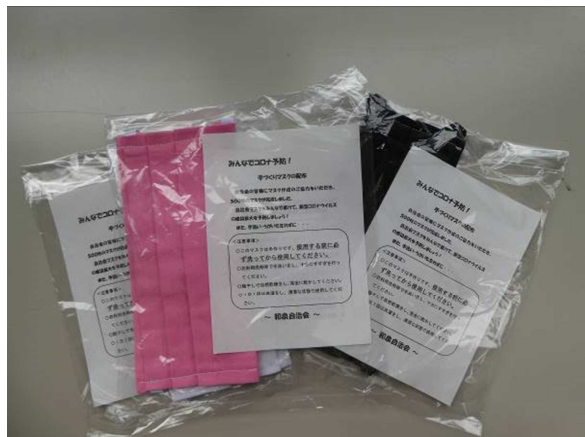


整備した換気扇

令和2年の初めから、新型コロナウイルスが感染拡大し、予防のためのマスクが、なかなか手に入らなくなった。特に高齢者の家庭では、区内では売り切れとなり、地区外に買いに行く事もできない状況であった。そんな中、外出自粛中に家でできること、自分ができることでお互いが助け合えることとして、自治会でマスクの製作活動と呼び掛けた。地区住民にボランティアを募集したところ、20名の住民ボランティアが集まり、各家庭で手作りマスクを500枚製作した。出来

上がったマスクを、全地区住民に配布した。

今後も、自分ができることでお互いに助け合える活動を広げていくことで、地区住民の絆が強まっていくものと感じられた。



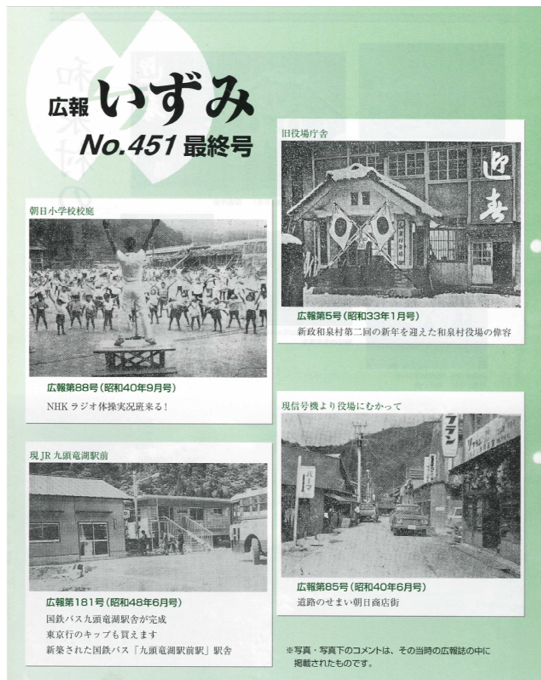
手づくり自治会マスク



マスク配布の様子

#### <人・伝統チーム>

人・伝統チームでは、地区の人口減少により和泉地区が誇る伝統行事などが途絶えないよう次世代に継承していくため、それらを記録し情報発信をしていくホームページやライブラリーの整備を行っている。旧和泉村の広報紙「いずみ」のライブラリーの作成もほぼ完成し、視聴方法について検討している。この記録を広く住民に公表することで地区への帰属意識を高め、地区外に発信していくことで和泉地区を広く知ってもらえるものと思われる。



域づくりの意識を高めるとともに、地区外にも和泉を広く知ってもらうことに活用していく。

いずみガイドブック「Toriko」の一部



(P1・2)



(P7・8)

データ化した旧和泉村広報誌「いずみ」  
 上：No.451 最終号（平成 17 年 10 月）  
 下：第 1 号（昭和 32 年 9 月）

・全体での活動

和泉自治会が「令和 2 年度過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣賞」を受賞したのを機に、今までの取り組みや活動をまとめ、今後の活動に繋げていくためガイドブックを作成した。  
 ガイドブックは、地区全戸に配布し住民に地

5 今後の展望

「和泉地区地域づくり計画」にそった事業・活動が、少しずつ住民に浸透してきている。今後は、地域にリーダーを育て、より多くの住民が参加するような場を作ることにより、人と人の繋がりや結束力、地域力・市民力が向上していくものと確信している。

「ここに住み続けられるために」を基本的な考え・共通の思いとして、自ら考え、行動する自立した地域づくりを推進していきたい。